

## 第99回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 令和元年12月3日(火) 13時30分～14時55分

2. 場 所 福島大学事務局 第2会議室

3. 出席者

【学外委員】阿部正、三部吉久、田原博人、富田孝志、林由美子、  
深澤秀樹、渡邊博美

【学内委員】中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、伊藤宏、内田広之、  
朝賀俊彦、鈴木典夫、貴田岡信、二見亮弘、生源寺眞一

〔オブザーバー〕 副学長：塩谷弘康、塘忠顕

監 事：上井喜彦、橋本潤子

4. 欠席者

【学外委員】川村栄司、斎藤美幸、佐竹浩、清水潔

【学内委員】なし

5. 議 事

【審議事項】

(1) 役員の業績評価について

(2) 就業規則の一部改正について

【報告事項】

(1) 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

(2) 今後の自己点検・評価の進め方について

(3) 学長候補者の決定について

(4) うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)活動状況報告について

(5) 環境放射能研究所(IER)活動状況報告について

(6) その他

議事に先立ち、中井学長から挨拶があった。

【確認事項】

第98回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

(1) 役員の業績評価について

中井学長から、資料1に基づき、令和元年12月期期末特別手当に係る役員の業績評価について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 就業規則の一部改正について

中田理事・副学長から、資料2に基づき、働き方改革の関連法施行に伴う「職員年俸制給与規程」の一部改正について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

【報告事項】

(1) 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

中田理事・副学長から、資料4に基づき、本学の評価結果として、「業務運営の改善及び効率化」「財務内容の改善」「自己点検・評価及び情報提供」「その他の業務運営」の項目別評価がいずれも「順調」であること、本学の注目すべき点として、農学群食農学類の設置に係る地域自治体・企業との協力関係による教育研究活動支援体制の構築が取り上げられたこと等の説明があった。引き続き、国立大学法人等の評価結果の概要等について説明があった。

(2) 今後の自己点検・評価の進め方について

中田理事・副学長から、資料5に基づき、令和3年度(3巡目)の認証評価の受審に向け、毎年度自己点検・評価を実施し、点検結果を「年次レポート」として経営協議会に報告すること、同報告を「学外者の意見」の聴取の場として外部評価に代わる位置付けとすることから、制度の概要について説明があった。

(以下、はその議題に関する学外委員からの質問・意見、は大学側の回答等を表す。)

7年間の評価と毎年の評価とあるが違いは何か。

認証評価が7年毎に実施するものであり、認証評価対応のために毎年の自己点検・評価を学内で実施する。

今までもエビデンスを積み上げて準備していたのか。

エビデンスベースになったのは令和3年度に受審予定の認証評価からであり、従来までは文章を中心としたもので今回大きく変わった部分である。

経営協議会に意見を求めるにあたって(年次レポートにおいて)基準・目標がないと、外部評価の視点というより、個人的な感想を述べるだけの場となってしまうのではないかと懸念された。また、認証評価で定める6つの領域のうち、学習成果については分量も大きく、重要度からしても他の基準と同等の文章量で説明できないと思う。

令和3年度(3巡目)の認証評価では、説明文章の量が領域ごとに400字と限られており、文章での説明よりもエビデンスが重視されている。そのため、認証評価の仕組みに対応する形で、文字数を設定した。認証評価においては、エビデンスの担保により、内部質保証の仕組みが整備されていることを示すよう求められている。また、年次レポートでは、年度毎の取組内容を1枚のポンチ絵(概要図)にまとめると同時にエビデンスも提示することにより、より精度の高い体制整備を示すことができる。

エビデンスが重要視されているが、エビデンスがなくても言葉で表現できることは尊重してほしいと思う。

### (3) 学長候補者の決定について

富田学長選考会議議長から、資料6に基づき、第66回学長選考会議(11月15日開催)において、三浦浩喜氏(現 理事・副学長(教育・学生担当))が次期学長候補者として決定した旨の報告があった。

意向投票において投票総数の過半数を超えていないが、上位2名による決選投票等はないのか。

従来は上位2名による決選投票があったが、今回から制度が変わり決選投票はしていない。

現在は、意向投票の結果を参考に、学長選考会議(の責任)において次期学長候補者を決定する形になっている。

### (4) うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)活動状況報告について

山口うつくしまふくしま未来支援センター企画・コーディネート部門長から、資料7に基づき、各支援部門における上半期を中心とした活動内容について説明があった。

### (5) 環境放射能研究所(IER)活動状況報告について

塚田環境放射能研究所長から、資料8に基づき、上半期の活動報告として、研究活動等の進捗状況、共生システム理工学研究科環境放射能学専攻修士課程の教育等の活動状況、研究成果の地域への情報発信等の取り組み内容について説明があった。

他大学の大学院生に環境放射能研究所への関心を持ってもらいたいと思っているが、国内の研究者との共同研究はどれくらいあるか。資料に、他大学から受け入れている学生数についても記載してほしい。

共同研究について、今年度は22件あり昨年度は18件であった。その他、国内の約20の研究機関と連携協定を結んでおり、そのうち3分の1くらいが大学である。また、他大学の大学院生も研究のために本研究所へ来ている。次回から本研究所に参与している学生数についても記載したい。

(6) その他

プレジデントオンラインの記事について

内田理事・事務局長から、資料9に基づき、プレジデントオンラインに掲載された記事について説明があった。

このような事案は、危機管理の観点から経営に関連することだと思うので、どこかで報告があったほうがよかったと思う。

公表に関しては、懲戒処分の公表基準に則して対応しているが、今回は公表の対象に該当していないため、公表していなかった。

## 第99回福島大学経営協議会議事要録

1. 日 時 令和元年12月3日(火) 13時30分～14時55分

2. 場 所 福島大学事務局 第2会議室

3. 出席者

【学外委員】阿部正、三部吉久、田原博人、富田孝志、林由美子、  
深澤秀樹、渡邊博美

【学内委員】中井勝己、中田スウラ、三浦浩喜、伊藤宏、内田広之、  
朝賀俊彦、鈴木典夫、貴田岡信、二見亮弘、生源寺眞一

〔オブザーバー〕 副学長：塩谷弘康、塘忠顕

監 事：上井喜彦、橋本潤子

4. 欠席者

【学外委員】川村栄司、斎藤美幸、佐竹浩、清水潔

【学内委員】なし

5. 議 事

【審議事項】

(1) 役員の業績評価について

(2) 就業規則の一部改正について

【報告事項】

(1) 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

(2) 今後の自己点検・評価の進め方について

(3) 学長候補者の決定について

(4) うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)活動状況報告について

(5) 環境放射能研究所(IEER)活動状況報告について

(6) その他

議事に先立ち、中井学長から挨拶があった。

【確認事項】

第98回経営協議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

(1) 役員の業績評価について

中井学長から、資料1に基づき、令和元年12月期期末特別手当に係る役員の業績評価について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

(2) 就業規則の一部改正について

中田理事・副学長から、資料2に基づき、働き方改革の関連法施行に伴う「職員年俸制給与規程」の一部改正について提案があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

【報告事項】

(1) 平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果について

中田理事・副学長から、資料4に基づき、本学の評価結果として、「業務運営の改善及び効率化」「財務内容の改善」「自己点検・評価及び情報提供」「その他の業務運営」の項目別評価がいずれも「順調」であること、本学の注目すべき点として、農学群食農学類の設置に係る地域自治体・企業との協力関係による教育研究活動支援体制の構築が取り上げられたこと等の説明があった。引き続き、全国立大学法人等の評価結果の概要等について説明があった。

(2) 今後の自己点検・評価の進め方について

中田理事・副学長から、資料5に基づき、令和3年度(3巡目)の認証評価の受審に向け、毎年度自己点検・評価を実施し、点検結果を「年次レポート」として経営協議会に報告すること、同報告を「学外者の意見」の聴取の場として外部評価に代わる位置付けとすることから、制度の概要について説明があった。

(以下、はその議題に関する学外委員からの質問・意見、は大学側の回答等を表す。)

7年間の評価と毎年の評価とあるが違いは何か。

認証評価が7年毎に実施するものであり、認証評価対応のために毎年の自己点検・評価を学内で実施する。

今までもエビデンスを積み上げて準備していたのか。

エビデンスベースになったのは令和3年度に受審予定の認証評価からであり、従来までは文章を中心としたもので今回大きく変わった部分である。

経営協議会に意見を求めるにあたって(年次レポートにおいて)基準・目標がないと、外部評価の視点というより、個人的な感想を述べるだけの場となってしまうのではないかと。また、認証評価で定める6つの領域のうち、学習成果については分量も大きく、重要度からしても他の基準と同等の文章量で説明できないと思う。

令和3年度(3巡目)の認証評価では、説明文章の量が領域ごとに400字と限られており、文章での説明よりもエビデンスが重視されている。そのため、認証評価の仕組みに対応する形で、文字数を設定した。認証評価においては、エビデンスの担保により、内部質保証の仕組みが整備されていることを示すよう求められている。また、年次レポートでは、年度毎の取組内容を1枚のポンチ絵(概要図)にまとめると同時にエビデンスも提示することより、より精度の高い体制整備を示すことができる。

エビデンスが重要視されているが、エビデンスがなくても言葉で表現できることは尊重してほしいと思う。

### (3) 学長候補者の決定について

富田学長選考会議議長から、資料6に基づき、第66回学長選考会議(11月15日開催)において、三浦浩喜氏(現 理事・副学長(教育・学生担当))が次期学長候補者として決定した旨の報告があった。

意向投票において投票総数の過半数を超えていないが、上位2名による決選投票等はないのか。

従来は上位2名による決選投票があったが、今回から制度が変わり決選投票はしていない。

現在は、意向投票の結果を参考に、学長選考会議(の責任)において次期学長候補者を決定する形になっている。

### (4) うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)活動状況報告について

山口うつくしまふくしま未来支援センター企画・コーディネート部門長から、資料7に基づき、各支援部門における上半期を中心とした活動内容について説明があった。

### (5) 環境放射能研究所(IER)活動状況報告について

塚田環境放射能研究所長から、資料8に基づき、上半期の活動報告として、研究活動等の進捗状況、共生システム理工学研究科環境放射能学専攻修士課程の教育等の活動状況、研究成果の地域への情報発信等の取り組み内容について説明があった。

他大学の大学院生に環境放射能研究所への関心を持ってもらいたいと思っているが、国内の研究者との共同研究はどれくらいあるか。資料に、他大学から受け入れている学生数についても記載してほしい。

共同研究について、今年度は22件あり昨年度は18件であった。その他、国内の約20の研究機関と連携協定を結んでおり、そのうち3分の1くらいが大学である。また、他大学の大学院生も研究のために本研究所へ来ている。次回から本研究所に参与している学生数についても記載したい。

(6) その他

プレジデントオンラインの記事について

内田理事・事務局長から、資料9に基づき、プレジデントオンラインに掲載された記事について説明があった。

このような事案は、危機管理の観点から経営に関連することだと思うので、どこかで報告があったほうがよかったと思う。

公表に関しては、懲戒処分の公表基準に則して対応しているが、今回は公表の対象に該当していないため、公表していなかった。